

平成26年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	学校図書館サポート推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課		
総合計画体系			根拠法令計画など			
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成	20年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期	
(小項目)	教育行政					
施策	3	義務教育の充実				
基本事業	9	図書館教育と読書活動の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 12学級以上の小・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	子どもたちが学校図書館を積極的に活用し、調べ学習や読書活動が活発に行われるなど、学校図書館の活性化が図られた状態。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	単位
		学校図書館サポーターの配置	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	25年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	学校図書館サポーターを配置し、司書教諭と連携しながら、学校図書館運営の支援を行い、学校図書館を活用した教育活動や読書活動の推進を図る。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		24年度実績	25年度実績	26年度目標	27年度目標	28年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	学校図書館サポーター配置校	6	6	7	7	7	校
	2							
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	学校図書館サポーターの配置		100.0	100.0	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)			100.0	—	—	—	%

コスト分析		24年度実績	25年度実績	26年度	27年度	28年度	単位	
事業費	(財源内訳の合計)		2,137	2,105	2,499	2,499	2,499	千円
	財源内訳	国	0	0	0	0	0	
		県	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	2,137	2,105	2,499	2,499	2,499	
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		652	652	652	652	652	人	
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		
	臨時職員等(2,012千円/人)							
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		2,789	2,757	3,151	3,151	3,151	千円	

【事務事業名：学校図書館サポート推進事業】

◎平成26年の実施状況(DO)

現在の実施状況	26年3月現在で12学級以上あった小中学校には、図書館サポーターを配置できたが、1年生で学級が従来より増加した学校には、配置できていない。継続的な図書館サポーターの配置により、学校図書館の貸出冊数や利用者も増え、調べ学習への連携や豊かな心を育てる読書活動の実践など図書館活動の充実に努める。また、国においても、子どもの読書活動を推進しており、学校図書館担当職員については、地方交付税措置がされている。「いつでも開いている図書館、必ず誰かいる図書館」を実現し、「心の居場所」となる学校づくりを進めるとする国の審議経過の報告もあるので、学校図書館の機能充実を図ることが求められている。
----------------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	サポーターの働きにより、図書室に足を運ぶ児童・生徒が増えてきており、書架の整理にも力を入れている。また、利用マナーの向上にも繋がっている。今後も継続配置することにより、読書活動が広がり、子どもの心の成長と生きる力の醸成に寄与する。配置されていない学校においても、保護者やボランティア団体が読み聞かせや蔵書整理を手伝ってくれており、今後もその体制が継続できるよう働きかけを続ける必要がある。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 義務教育の充実 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	8	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	学校図書館の活性化や子どもたちの読書活動の推進に非常に有効な事業である。6年が経過し、サポーターと学校との連携も出来てきており、学校図書館の活性化に貢献している。廃止することは保護者の理解が得られない。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 行政内部の管理上の課題解決に貢献している。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業目標が達成できるような事業内容になっている。			
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 事業対象は適切である。			
<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。		
3.効率性の評価		理由等所見欄	
10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	人件費は、必要最小限の時間数としており、これ以上削減することはできない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題					
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	未定 ▼ ▼			
	どのように改革するのか				